

2012 年度後期
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 25 年 3 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

目 次

基礎教養科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
1	英語Ⅱ	キャンベル早川久美子	演習	1
2	英語Ⅱ	椎野 美知子	演習	2
3	国語表現法	宮川 久美	講義	3
4	健康・スポーツ論	村田 トオル	講義	4
5	人権と差別	馬越 かよ子	講義	5
6	フランス語Ⅱ	浅野 友子	演習	6

生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
7	グリーンプランニングⅡ	寺田 孝重	講義	7
8	グリーンプランニングⅡ	山中 尚子	講義	8
9	コミュニケーションの基本	富岡 郁子	講義	9
10	居住環境整備の技法	北口 照美	演習	10
11	セラピー概論	吉村 治美	講義	11
12	発達と老化の理解	吉田 裕司	講義	12

生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
13	育児学	飯田 恵子	講義	13
14	運動生理学	元山 宏道	講義	14
15	栄養指導論実習Ⅰ	須谷 和子	実習	15
16	公衆衛生学	高尾 理樹夫	講義	16
17	社会福祉概論	李 仙恵	講義	17
18	食品材料学(加工学を含む)	池内 ますみ	講義	18
19	調理実習Ⅱ	島村 知歩	実習	19
20	フードスペシャリスト論	三浦 さつき	講義	20
21	臨床栄養学	毛受 真由美	講義	21

生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
22	カラーコーディネート演習	中村 妙子	演習	22
23	経営学総論	向井 光太郎	講義	23
24	経理実務Ⅱ	佐藤 真理	実習	24

地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
25	音楽Ⅰ(ピアノ)	奥田 尚子	演習	25
26	音楽Ⅰ(ピアノ)	本間 晶子	演習	26
27	音楽基礎演習Ⅱ(理論)	澤田 博	演習	27
28	音楽Ⅲ	大城 弓恵	演習	28
29	器楽合奏	石原 興子	演習	29
30	更生保護制度	尾崎 剛志	講義	30
31	社会的養護	山口 直範	講義	31
32	保育原理	中村 恵	講義	32
33	保育(言葉)	片岡 三和	演習	33
34	保育実習指導Ⅱ	石田 裕子	演習	34
35	保育相談支援	石田 伸子	演習	35
36	保育(表現・音楽Ⅱ・Ⅰ再)	大西 有紀	演習	36
37	保育(表現・音楽Ⅱ・Ⅰ再)	玉井 奈摘	演習	37
38	保育(表現・音楽Ⅱ・Ⅰ再)	中島 倍代	演習	38
39	保育(表現・音楽Ⅱ・Ⅰ再)	宮田 真理	演習	39
40	保育(表現・音楽Ⅱ・Ⅰ再)	山下 玲子	演習	40
41	保育(表現・幼児造形Ⅰ)	福井 靖子	演習	41
42	レクリエーション指導法	中西 信之	演習	42

専攻科 福祉専攻 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
43	介護予防	加藤 明日香	講義	43
44	高齢者に対する支援と介護保険制度	武田 千幸	講義	44
45	障害の理解	山田 和歌子	講義	45

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : キャンベル早川久美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英語Ⅱ **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8310b **授業形態** : 演習 **受講者数** : 29名 **回答者数** : 25名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	24	1	-	-	-	12	3	10	-	-	-

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均												
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5								
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.32																	
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.44																	
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.88																	
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	<table border="1"> <tr> <td>とても多い</td> <td>やや多い</td> <td>適切</td> <td>やや少ない</td> <td>とても少ない</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>8.0%</td> <td>24.0%</td> <td>68.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答	8.0%	24.0%	68.0%	-	-	-					
	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答														
8.0%	24.0%	68.0%	-	-	-															
授業の進め方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.24																	
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.36																	
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.32																	
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	<table border="1"> <tr> <td>非常に高かった</td> <td>やや高かった</td> <td>適切であった</td> <td>やや低かった</td> <td>非常に低かった</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>24.0%</td> <td>28.0%</td> <td>48.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	24.0%	28.0%	48.0%	-	-	-					
	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答														
24.0%	28.0%	48.0%	-	-	-															
⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.04																		
総合評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.16																	
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.13																	

1 授業の概要、特徴等

英語Ⅰの発展として、英語の読解力、表現力を身につける。教科書の内容に関する歴史的、文化的理解を同時に深め、それらについて自己表現できることを目標とする。また、実践的英語力を培う。

2 アンケート評価結果に対する見解

教養科目なので、特に予習や課題はかさないでいるので、受講態度については、記入しにくい部分があるであろう。教師の熱意が通じましたか、ということについては、平均的であったので自身落胆するところもあるが、何をもって熱意ととらえるのか、学生とも話し合ってみたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

今年度、あるいは今期の学生はたいへん熱心で成績優秀なものが多かった。前期、後期継続して受講する生徒も多いため、ある意味で学生を把握しやすい。特に目立った喜ばしいことは、前期には実力的にかなり難しい状態であった学生が気持ちのよい伸びを見せてくれた。また、単位認定試験の追試は、時としてあきらめてしまう学生もいるが、素直で誠実な努力をみせた。

4 授業改善の方法

補講は、今年度は所用により一度行った、後半ほど日程調整が難しいようであった。補講なしはベストであろう。教材そのものは、平易ではないが、一方に難しいのだという先入観による囚われも拭えない。平成25年度より、高校の授業が英語で行われることによって、英語の捉え方も変わってくるのが、期待でしょう。授業については、多様な学生を受容できるよう努めたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 椎野 美知子 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : 英語Ⅱ 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8310a 授業形態 : 演習 受講者数 : 36名 回答者数 : 34名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	33	-	-	1	-	8	1	23	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.12						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.41						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.03						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 2.9%	やや 多い 17.6%	適切 73.5%	やや 少ない 2.9%	とても 少ない 2.9%	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.26						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払って いましたか	5	4.18						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.29						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 8.8%	やや 高かった 44.1%	適切 であった 41.2%	やや 低かった -	非常に 低かった 5.9%	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.18						
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることが できたと思いますか	3	3.88						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるもので あったと思いますか	2	3.97						

1 授業の概要、特徴等

授業の構成は、基本的に英語Ⅰと同じ。 1. 相手に伝わる音声を出すための複式呼吸とアルファベットの発声練習 2. 息を使つての単語と単文の読み方の練習 3. 英語の詩の表現 4. 自作文のスピーチ となっている。特徴は、講義形式ではなく、全員参加の訓練形式をとっている事。

2 アンケート評価結果に対する見解

前期に手応えが感じられなかったため、後期は授業内容を変えるべきか悩んだ。けれどもやはり、この授業は必要な授業だと自負していたので、もう一度チャレンジしてみた。私の方は熱意を持って取り組んだが、学生の方は熱意を持って取り組んでくれなかったため、アンケートはその結果を表していると思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価は「発表」という形をとったが、7~8人以外はほとんど同レベルだったので、筆記試験も併せて行わざるを得なかった。授業への取り組み方を主な評価基準としていたので、座席を決めて全員の名前を覚え、不公平のないように配慮した。

4 授業改善の方法

教科書を使わずに授業を行ったが、プリントを失う学生が多く、来年度は教科書を使うことにした。発表という形も、授業がさわがしくなるという欠点があり、来年度は筆記中心の評価にしたいと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 宮川 久美 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 国語表現法 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8110de **授業形態** : 講義 **受講者数** : 96名 **回答者数** : 84名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	78	6	-	-	40	32	5	6	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.39						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.62						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.14						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 3.6%	やや 多い 11.9%	適切 81.0%	やや 少ない 2.4%	とても 少ない -	無回答 1.2%	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.27						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.53						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.51						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 11.9%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 54.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.18						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.39						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.33						

1 授業の概要、特徴等

日常の言語表現(文章表現および口頭表現)において、自分の考えをまとめ、聞き手に伝わるように表現できるようになることを目指している。規範意識を持ち、聞き手を尊重した表現を身につけるよう、ワークを行い、その都度不適切な表現を是正し、自然に正しい読み書き、口頭表現が身につくように工夫している。

2 アンケート評価結果に対する見解

ほぼじめに授業に取り組んだと思われる。私語も見られたが、ワークをする際は学生同士で相談や意見交換をすることも意味があるのである程度はやむを得ないとする。しかし、たとえば、待遇表現にしても、仮名遣い・送り仮名についても、なぜそうなのかを説明してもあまり聞きたがらず、結果としてどう言えばいいのか、だけを聞きたがる。それでは応用が利かないので多少難しくても理論の説明部分も聞いてほしい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

繰り返しワークをし、提出してもらったものを添削して返却し、小テストを行い、それも添削して返却しているが、なかなか、完璧なところまでは到達しない。しかし、再履修の学生は、真剣に取り組み、小テストでほぼ満点が取れるようになった。5回の小テストで60パーセント以上正答すれば、単位認定した。

4 授業改善の方法

できるだけわかりやすく、例を挙げて説明する。説明したことは直ちに実際にワークなり、ロールプレイ等でやってみて身につけさせるようにする。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 村田 トオル **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 健康・スポーツ論 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8250ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 74名 **回答者数** : 68名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	62	1	1	-	5	1	58	-	-	4

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.44						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	2.74						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.47						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	2.9%	97.1%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.31						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.18						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.49						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			1.5%	10.3%	86.8%	1.5%	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.06						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.38						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.25						

1 授業の概要、特徴等

個人の生活習慣に深くかかわるメタボリックシンドロームという言葉が一般化しているが、では実際にどのような生活習慣を送れば健康づくりにつながるのかという意識をインターネットで話題になったできごとや、CMを通じて学生に気付かせ、時には教員の経験談か講義している。また教科書・テキストは用いず、ポイントをまとめたプリントを毎回配布し、重要なポイントは書き込ませるようにしている。また、実習を迎えるにあたっての体調管理の方法を具体的に提示し、実践へつなげるように工夫している。

2 アンケート評価結果に対する見解

資格取得に直結する科目ではないので、毎回のテーマに対しての導入と結論の整合性に毎回苦慮した。しかしながら、19、20歳の立場になり、興味を持てる視点から進めたのがよかったのではないかと感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

自分の健康状態や生活習慣に気が付き、その習慣をどのように改善していけばいいのかを振り返り気付かせることを目標としている。そのため、複数のテーマから自分の健康にかかわり実践できるような自己の健康づくり方法を述べさせるレポート課題をもって単位認定としている。

4 授業改善の方法

アンケート自由記述欄にあったように、授業中の私語防止のため座席指定を検討する。その他については、これまでどおり、健康という目には見えないが、なくてはならないものを若い世代に理解させ、実践に移すよう動画を利用した授業を心がける。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 馬越 かよ子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 人権と差別 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8105bc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 66名 **回答者数** : 52名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	52	-	-	1	-	-	50	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.79						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.17						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.92						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 1.9%	やや 多い 26.9%	適切 71.2%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.15						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.29						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.29						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 38.5%	適切 であった 59.6%	やや 低かった 1.9%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.10						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.33						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.12						

1 授業の概要、特徴等

人権とは何か、差別を生み出すメカニズムとはどのようなものかについて普遍的・個別的の両方の視点からアプローチして、人権に対する理解や認識を深め、学生自身が自分の問題として考え、行動に踏み出せることを最終目標として、授業では毎回、その日の授業の内容および新たな発見をコミュニケーションカードに記入して提出させるとともに課題によるレポートでグループ討議や発表を通してその到達度を確認した。

2 アンケート評価結果に対する見解

ほぼ毎回のレポート提出等により、学生は予習や復習の概念ではなく、日常生活から人権課題を考察し人権を身近なものとして考える態度を身につけ、人とのかわり方や差別のメカニズムを理解したと思われる。集中力が散漫になり気味な学生の注意を喚起させるための質問が特定の学生に集中する結果となっていたと考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

最終の人権レポートで学生が自らが課題と考える事例を掲げ、問題点、原因の分析、解決策などを記述し、グループ討議で問題点を深め、他のグループの提示する課題から新たな発見をするなどの過程を経て、学生は授業の目標に近づくことができたと考えられる。目標の達成度にあわせて評価基準を定め、出席状況や受講態度60%、科目終了レポートおよび発表40%として成績評価を行い、単位を認定した。

4 授業改善の方法

「差別は許せない」など頭で理解していることを自らの行動に結びつかせることとあわせて保育士として子どもにどのように理解させるかとの両方の視点からの授業展開が求められる。受講人数にもよるが上記の視点を踏まえてグループディスカッション、ディベートなど学生が自ら考える機会となる手法を工夫したい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 浅野 友子 職名 : 非常勤 所属 : 全学
 科目名称 : フランス語Ⅱ 科目群 : 基礎教養科目
 授業コード : 8335 授業形態 : 演習 受講者数 : 19名 回答者数 : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	16	-	-	-	-	1	-	15	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.75						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.50						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.73						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	12.5%	81.3%	6.3%	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.13						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.19						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.25						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	50.0%	50.0%	-	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.06						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.06						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.38						

1 授業の概要、特徴等

前期に引き続き、フランス語の表現を練習しながら、初級文法の後半を学ぶ。教科書も前期と同じものを使用する。多くのフランス語に触れ、練習問題を多数こなすことによってフランス語を身につけることを目標とする。後期にはフランスの文化・文学に関する紹介も行っており、文化的な諸様相に関心を持つよう、促している。

2 アンケート評価結果に対する見解

課題は授業時間の範囲内で収まるようにしており、この点に関する質問には、学生も答えにくかったのではないと思われる。学生の理解度には十分配慮し、わかりやすい説明を常にこころがけているが、今年度の教科書が少しむずかしかったこともあり、若干平均を下回る数値となっている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

フランス語に関心を持ち、基本的なフランス語文を作れるようになったかどうかを評価の基準とする。授業中の態度、積極性も考慮される。

4 授業改善の方法

改善の方向としては、学生の動機付けを保つことに尽きる。後期の受講生は前期の単位取得者のみとなるので、フランス語にもある程度慣れ、その点では環境、雰囲気も前期よりは改善されることが多い。一方、教科書だけでは新鮮味が薄れてくるという側面も否めないため、文化・文学を紹介する機会を増やし、興味・関心を伸ばすように工夫を続けている。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 寺田 孝重 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニングⅡ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1615 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	11	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.27						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.18						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 9.1%	やや 多い 9.1%	適切 81.8%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.27						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.27						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.18						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 9.1%	やや 高かった 9.1%	適切 であった 81.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.00						
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.18						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.36						

1 授業の概要、特徴等

園芸福祉に実際使用されている項目について、実習・講義を行った。特に和楽園における実地体験は、学生にとってむずかしいものであった(レベル的に)と思うが、貴重なものであったと思われる。さらに、福祉コースとして2回生のサポートがあり、福祉コース全体のレベルアップが感じられた。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生の理解度ではしかたがないが、本来もう少しし得る物は大きいものがある。実地体験の価値が実感されるのは、社会に出てからであろうと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

レポート、実習態度等初心者としては一応評価できるものであった。

4 授業改善の方法

単位的には不可能であろうが、実地体験への2回生の参加を考えてみてはどうかと思われる。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 山中 尚子 職名 : 非常勤 所属 : 生活未来科
 科目名称 : グリーンプランニングⅡ 科目群 : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
 授業コード : 1615 授業形態 : 講義 受講者数 : 11名 回答者数 : 11名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	11	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.27						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.18						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 9.1%	やや 多い 9.1%	適切 81.8%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.27						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.27						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.18						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 9.1%	やや 高かった 9.1%	適切 であった 81.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.00						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.18						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.36						

1 授業の概要、特徴等

グリーンプランニングⅠで学んだことをベースに、実習を通して、現場で実践できる力を養う。

2 アンケート評価結果に対する見解

概ね想定通り。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

最終的には、高齢者施設への訪問実習において、利用者との園芸を介した交流と援助ができるようになることを目標とした。評価基準は出席70% レポート20% 圃場評価10%にて採点。

4 授業改善の方法

今期の受講者は、ほとんどが食物栄養専攻の学生だったので、高齢者福祉・介護に関する基礎知識について解説する時間も設けた。また、訪問実習では、介護福祉専攻の2回生にボランティアとして参加してもらい、学生たちのフォローにあたってもらったが、非常に良かったと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 富岡 郁子 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : コミュニケーションの基本 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1250 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 51名 **回答者数** : 47名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	44	2	-	1	38	1	6	1	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.43	[Bar chart showing student average at 4.43]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	1	3.15	[Bar chart showing student average at 3.15]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	4.21	[Bar chart showing student average at 4.21]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い 2.1% やや多い 10.6% 適切 85.1% やや少ない 2.1% とても少ない - 無回答 -	[Bar chart showing student average at 4.21]				
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.49	[Bar chart showing student average at 4.49]				
授業の進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.39	[Bar chart showing student average at 4.39]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.36	[Bar chart showing student average at 4.36]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	非常に高かった 8.5% やや高かった 27.7% 適切であった 61.7% やや低かった 2.1% 非常に低かった - 無回答 -	[Bar chart showing student average at 4.36]				
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.36	[Bar chart showing student average at 4.36]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.38	[Bar chart showing student average at 4.38]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.30	[Bar chart showing student average at 4.30]				

1 授業の概要、特徴等

本科目は介護福祉士養成のための「介護の基本」分野の目標があるため、演習例は介護福祉士の領域をイメージしたものを想定した。しかし、他コースの学生も受講しており、十分説明を補足することが求められた。演習が多く、月曜日の4限目続きの4限目の出席態度としては、学生も精一杯であったように思う。将来の介護現場で通用する気遣いも含め、自身のコミュニケーションの癖に気づき、理論の実践に向けた演習になったと考えられる。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業の予習・復習について、試験前は別として、予習は要さず、復習については、演習時の気づきを実習等で実践するように指導した。その結果、データ値は低いものと思われるが、それでも、予習復習に取り組んだ学生がいたことがわかった。本来もっている自身のコミュニケーションの癖等が素直に出せることによって、新たな自分の能力開発にもつながるので、授業への不必要な構えがあることは好ましくない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

コミュニケーションの演習を多く取り入れた場合、50人程度の活動を評価することは困難である。よって、筆記試験では、基本用語の確認、理解度や場面設定での対応等を表現し書くことを求めた。書く能力が評価に大きく反映していることが、評価をゆがめているものと思われる。しかし、近年、特に介護福祉士として記録の強化が求められているので、コミュニケーションツールとしての記録にも力を入れるべきものと思われる。

4 授業改善の方法

学科共通科目「コミュニケーション演習」と重なる内容や同様の演習があり、カリキュラムの構成科目の内容を教員がよく知ること、目標や手法について吟味する必要がある。教員にも十分に授業準備の時間の余裕が持てることを切望する。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 北口 照美 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 居住環境整備の技法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1325 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 37名 **回答者数** : 33名

回答者 内訳	学年				学科・コース							
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答	
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース					
	-	33	-	-	32	-	-	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.06						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.52						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.88						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 6.1%	やや 多い 12.1%	適切 81.8%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.36						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.52						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.42						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 9.1%	やや 高かった 27.3%	適切 であった 63.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.36						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.45						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.45						

1 授業の概要、特徴等

介護福祉士資格取得のための必須科目である。居住環境を整える必要性・重要性・意義、整備技法から、住まいに関連の社会制度・施策に言及している。介護福祉士としての現場での技法だけでなく、自分自身の住生活に対する知識・技術を身につけることも目的として幅広い講義を行っている。

2 アンケート評価結果に対する見解

全体的に「4」が多く、講義に対して、まじめに受講してくれていたと感じている。「⑩授業のレベル」については「3」適切であったとの回答が多く、授業内容が理解されたと考えられる。また「⑦の授業の雰囲気は乱れないよう配慮」や「⑩学生の理解度への配慮」は、各個人により能力や学ぶ意欲の差が大きく、理解できていない学生に対するの個人への配慮が難しい状況であった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成は平均的にはできている。ほとんどの学生はまじめに受講し、宿題などの課題に対しても目標以上の達成が出来ている。しかし、一部の学生には、テキストや配布プリントを読み返すように工夫した課題を繰り返し与え、宿題だけでなく講義時間内に課題を完成させ知識を身に付けられるようにした。

4 授業改善の方法

テキスト内容を学生自身が、しっかりと読み理解するようにさせたい。そのため、別途配布プリントなどは少なくし、パワーポイントなどもテキストを活用して作成する。また、課題についても、テキストを用いて答える内容とする。講義は、生活と密接につながっていることを理解してもらうため、講義内容と自分の日常生活に関連付けた考察を、毎講義時間終了時に記述させるようにする。同時に、これらの内容に、次回講義時にコメントを加えるなどして、受講生の講義への積極的な参加意識を高めることにもつなげる。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 吉村 治美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : セラピー概論 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1230 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 36名 **回答者数** : 30名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	30	-	-	30	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.07						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.37						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	3.70						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	30.0%	70.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.50						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.40						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.43						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			10.0%	23.3%	66.7%	-	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.27						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.43						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.47						

1 授業の概要、特徴等

高齢者や、利用者に対して、心の安定や、状態がいかに体調に関与しているか。また、要介護度を下げていく、また上げていくための東洋医学の知恵を学びつつ、介護する側のストレスやケアを学ぶ。また東洋医学の知恵と植物療法の併用で、いかに健康維持をして心身ともに健やかに暮らせるかを学ぶ

2 アンケート評価結果に対する見解

居眠りや私語は少ない方だと認識していましたが、平均以下であったので今後は改めて改善するよう努めます。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

東洋医学のプロになるのではないので、厳しい試験は考えていませんが、利用者さんの声が聴ける介護、身近に感じてもらえるような人材でなく人財になってもらえるよう、願っております。そのためにも講義のポイントや現場で活かせる知識を深め、また介護者も心身ともに健やかで仕事が出来る様知識を増やしてもらいたいと願っております。出席率を重視しています。理解度と興味対象を知るためにレポートえお提出してもらいます

4 授業改善の方法

板書や、プリントへの書き込みをさせることにより居眠りや私語が改善されるのではないかと考えています

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 吉田 裕司 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 発達と老化の理解 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1505 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 47名 **回答者数** : 43名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	38	5	-	-	41	-	2	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.70	[Bar chart showing 4.70]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.51	[Bar chart showing 3.51]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.95	[Bar chart showing 3.95]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い 34.9% やや多い 32.6%	適切 32.6%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.00	[Bar chart showing 4.00]				
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.45	[Bar chart showing 4.45]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.45	[Bar chart showing 4.45]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった 37.2% やや高かった 46.5%	適切であった 14.0%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 2.3%	
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.54	[Bar chart showing 3.54]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.56	[Bar chart showing 4.56]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.02	[Bar chart showing 4.02]				

1 授業の概要、特徴等

「発達と老化の理解」のため総論二回、臓器別各論十二回、試験一回の構成で、介護福祉士の国家試験問題に沿うレベル・内容とし、教科書二冊を用いた。画像の説明・大人数教室で後部席への配慮・学生の状況把握の観点からスライドを使用。要点は箇条書き等コンパクトに提示、重要と思われる事項は複数回説明した。介護に必要な加齢医学、特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について広く知識を得られると考えている。

2 アンケート評価結果に対する見解

生活未来科学生(43名)の回答では、全体平均を下回ったのは3項目で、他の9項目では全体平均同等もしくはそれ以上であった。授業の雰囲気作りや内容には一定の評価が得られた反面、内容的にやや多いとか、ノートをとることのわずらわしさを訴える回答が見られた。一方、専攻科学生(6名)の回答では12項目全てで全体平均を下回り、講師の意図が十分には伝達されていないように思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標としては、介護に必要な加齢医学、特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について広く理解すること。成績評価は受講姿勢10%(規定出席回数に到達すれば満点とする)、筆記試験90%で行い、基準点以上を授業目標達成者として単位認定する。基準点未満の場合はレポート提出とし、内容として授業目標達成者に単位認定する。

4 授業改善の方法

授業内容は吟味を重ねた内容で、質量共に適切であると自負していたが、短大必修科目として、学生個々人に行き届かない面があった点を反省しなければならない。ノートをとることは、脳の活性化・居眠り防止・内容の理解に寄与すると考え、教育上重要と考えていたが、スライドを書き写す労力を厭う回答が複数あり、また一部に講師の意図が十分伝わっていないと考えられる回答が見られたため、プリントを用意する必要があると感じている。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 飯田 恵子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 育児学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2310 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 20名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	15	4	-	-	-	19	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.00	[Bar chart showing 4.00 average]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.22	[Bar chart showing 3.22 average]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.21	[Bar chart showing 4.21 average]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い -	やや多い 5.3%	適切 94.7%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.63	[Bar chart showing 4.63 average]				
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.58	[Bar chart showing 4.58 average]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.56	[Bar chart showing 4.56 average]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった 5.3%	やや高かった 15.8%	適切であった 78.9%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.53	[Bar chart showing 4.53 average]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.63	[Bar chart showing 4.63 average]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.58	[Bar chart showing 4.58 average]				

1 授業の概要、特徴等

育児学は将来、栄養士過程を専攻している学生を対象に開講している。本年度は女子学生のみを受講希望者だったため、母親になるであろう学生に身体の特徴から、妊娠、出産、育児、壮年期、老年期を見据えた変化を学生自身、今後経験することを前提に講義を行った。育児(小児栄養を含む)の知識・技術においては、最近の学術論文を用いながら、また科学的根拠を理解しやすいように補助教材等を使用しながら理解を深めるように行い、演習を踏まえて習得できるように行った。また生命観、母性観を養うために、『いのち』とは何か、親として、栄養士としての子どもとの関わりとは何かを常に学生に問いかけながら行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生の評価は、全体平均と比較するとほとんどの項目において、高い評価であった。学生の評価が高かったのは、高い教育的効果を得られるように視覚教材を用いたり、学内で演習が可能な項目においてはできる範囲で演習を行ったり、学生自身の母性感を培い、グループダイナミクスを発揮できるように参加型の講義を行ったため、学生は講義の時間を充実することができたためではないかと考える。しかし実際に講義の内容が活用されるのは、学生自身が親になったときや就職したときであり、そのときに応用できるように意識付けするためには自分自身で再度見直しを行い、今後の課題を明らかにする必要があると考えたため、講義終了時に学生自身の現在の母性感についてレポートし、今後どのようにそれらを培っていくか学生に喚起を行った。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標を常に意識し、また学生個人の母性観、生命観を養うことを念頭に置きながら授業を行った。生命誕生については、写真とDVDを使用し学生からは、『いのち』について考えることができ、かけがえのない『いのち』を大切にしないといけないという内容の発言が聞かれた。また今回の受講人数は20名であり、演習やグループワークを行うには適切な人数であり、時間配分や演習実施などうまく取り入れられたと考える。成績評価基準は、初回授業に学生に詳しく資料を用いて説明を行った。学生はそれを踏まえ講義やレポート課題、演習に取り組んでいたと考える。

4 授業改善の方法

授業の要点を講義内容に添って整理したプリントを配布し、理解を深められるように行っていた。しかし育児の知識や技術の習得については、学生個人の意欲や興味が重要なポイントになるため、いかに意欲や興味を引き出せるように関わっていくかが大切であると考えた。またグループダイナミクスを発揮するためには、メンバーの選定も必須であるため、今後は専任教員の協力も得て、メンバーリングを行いたいと考える。今後は重要なポイントにおいては時間をかけ、視覚教材や演習などで意欲を引き出すように行っていきたいと考える。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 元山 宏道 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 運動生理学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2130 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 29名 **回答者数** : 25名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	25	-	-	-	25	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.84					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.80					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.08					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い - やや多い 8.0%	適切	やや少ない 8.0% とても少ない -	無回答	-	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	1	3.36					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	3.88					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.08					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	非常に高かった - やや高かった 44.0%	適切であった	やや低かった 4.0% 非常に低かった -	無回答	-	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.72					
総合評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.92					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.84					

1 授業の概要、特徴等

栄養士養成課程ということ踏まえ、特に運動生理学を栄養学との関係と、将来栄養相談の現場および家庭でも実践できる内容を重点とした。講義は、毎回レジュメを配布し、その内容について解説を行い、適宜行う質問と講義の最後に20分間行うレポート課題を行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

全体的には可もなく不可もなくという印象を受けましたが、声が聞きづらいという声は講義の初期からも多く聞かれていたため、この点についてはアンケート⑤や自由記述にもはっきり現れていると思われた。また、試験を実施せず毎回のレポート課題を中心に評価を行ったため、予習復習に関する評価が低く、課題の取り組みについての評価が高くなったと思われた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学期の前半では生理学・栄養学の基礎を積み、後半ではそれを踏まえた運動生理学、および健康管理の実践・応用を理解することを目標とした。成績評価基準は、主として毎回のレポート課題、授業中の質問の回答での内容のうち、習熟度の加えて積極性、疑問の提起、および実践例の例示を重視した。単位認定は、これらの評価を全15回の講義の合計で規定の評点に達した者に行った。

4 授業改善の方法

レジュメプリントでは、表・図の量が少なく、レイアウトにも工夫が必要であるという意見が多かったことから、解説中心より具体的なイメージを掴みやすい表・図の提示が必要であると感じた。話し方が明瞭でないという指摘が多かった点については、はっきりとした発話を心がけるよう努めたい。また、レジュメに目を落としていることが多かったことも一因ではあると思われるので、この点についても注意が必要であると感じた。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 須谷 和子 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 栄養指導論実習 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2210 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 34名 **回答者数** : 31名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	31	-	-	-	-	31	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.26						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.19						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.00						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 6.5%	やや 多い 32.3%	適切 58.1%	やや 少ない 3.2%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.23						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	3	4.39						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.35						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 6.5%	やや 高かった 48.4%	適切 であった 45.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.23						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.35						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.16						

1 授業の概要、特徴等

栄養指導をするにあたり、必要な知識(食生活指針、食事バランスガイドの概要、荷重平均栄養成分計算、食品群の特徴、献立作成、パソコンを使用した栄養価計算、一週間の献立作成、献立評価食品比率の算出など)を理解し、献立の作成ができることを最終目標としている。特に2回生になると給食の献立作成に大切な内容なので、学生が「難しい」と感じている食品の取り合わせや分量などのコツをつかんでもらうため、秤量実習を行うことから始めた。この効果は別にとったアンケートで好評であったので段階を踏めば献立作成もスムーズにできるようになると考えている。

2 アンケート評価結果に対する見解

栄養士として現場で仕事をするうえで1週間分の献立がスムーズに立てられることは必須条件である。そのため栄養価計算からはじまり、手書きの献立作成、パソコンの「栄養君」ソフトを用いた作成と段階を踏んで説明を行っている。学生の自由記述欄に、メニューを考える時の味付けの調味料の分量がよくわからない、という意見があったが、この点については年を追うごとに調理に対する感覚や理解に差があり、基準をどこに据えるか難しいと感じる。全体として、学生の理解度によって個々に対応し緩やかにした部分もあった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標達成は栄養君を使って1週間分の献立がスムーズにたてられるようになることである。成績評価基準は授業態度30%、課題提出50%、小テスト20%とした。小テストについては栄養価計算等を実施し、栄養士として必要な計算力を身に付けてもらい確認を行った。献立作成が不十分であったり栄養価が充足されていない学生に対しては、できるまでやり直しをさせ最終評価を行った。

4 授業改善の方法

昨年同様、計算力がなかなか身につかない学生が多いので、もう少しこまめに小テストを行い、記憶の定着に努めたい。献立作成についてもイメージがわくように料理本や写真を使うなどして視覚に訴える授業ができないか更に検討したい。秤量実習については来年度も行い感覚をつけてもらえるよう授業を進めたい。パソコン操作ができるようになって、実際の料理としての提供を考えたとき、感覚がつかめていない学生が増えているように思う。従って、実習の中に汁物や和え物などを作る際の取り合わせや基本の味付けなども再度確認も兼ねて盛り込みたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 高尾 理樹夫 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 公衆衛生学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2105 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 34名 **回答者数** : 31名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	31	-	-	-	-	31	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.74						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.71						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.48						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	3.2%	96.8%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.48						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.93						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.03						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	25.8%	71.0%	-	-	3.2%	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.00						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.23						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.32						

1 授業の概要、特徴等

受講者の多くが女性であり、将来的には食事を通じて家族の健康管理を行う存在になるため、それに必要な情報提供や、栄養士と係わりの深い分野をピックアップして解説した。具体的には、感染症予防、生活習慣病予防のための食事、栄養疫学について特に深く掘り下げた講義内容とした。講義形式はPower Pointを用いたプレゼンテーション方式で行った。1限目という事もあり、学生が居眠りしないよう、文字を少なくして、画像やグラフを中心にした視覚に焼きつけるスライドを多く用いた。

2 アンケート評価結果に対する見解

本年度、最も重視した授業目標は、難しいことを明瞭でわかりやすく伝えることであった。アンケート項目の「この授業における教員の話し方は明瞭でわかりやすかったと思いますか」という項目が、全13項目中で最も高い評価(4.48/5.00)であった事には満足している。反省点としては、予習や復習をあまり課さなかったことであり、それはアンケート結果にも反映されていたため、今後の改善課題にしたいと考えている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価はシラバスの基準通り、出席状況(40%)、定期試験の成績(60%)で正当に評価した。全体的に出席状況は良好であり、授業態度も問題なかった。定期試験は記述式で実施したが、学生の回答は、授業中に話した具体的なエピソードを含めた記述内容が多く、講義内容をよく理解していたため、授業目標は達成できたと考える。

4 授業改善の方法

来年度からは、授業の復習に取り組みさせるため、数回の小テストを実施したいと考えている。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 李 仙恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 社会福祉概論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2110 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 44名 **回答者数** : 37名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	33	4	-	-	-	32	1	4	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.81	[Bar chart showing distribution]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	2.68	[Bar chart showing distribution]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.36	[Bar chart showing distribution]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い 5.4%	やや多い 21.6%	適切 73.0%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.00	[Bar chart showing distribution]				
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.22	[Bar chart showing distribution]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.35	[Bar chart showing distribution]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	非常に高かった 5.4%	やや高かった 32.4%	適切であった 62.2%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.97	[Bar chart showing distribution]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.95	[Bar chart showing distribution]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.03	[Bar chart showing distribution]				

1 授業の概要、特徴等

この授業では、社会福祉の理念や定義、今日の社会問題、社会保障、社会福祉援助技術等、社会福祉全般にわたる課題を設定して授業を進めた。とりわけ、学生に今日の社会福祉問題に関心をもってもらうため、社会問題である児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、孤独死問題、自殺問題を取り上げた。このような社会福祉問題をより身近な問題として理解し、今後、社会福祉問題に興味を持って自分から取り組んでいけるような授業の内容に設定した。

2 アンケート評価結果に対する見解

この授業では、講義後、毎回、学生にコメントカードを書いてもらい、学生の意見や感想を踏まえて授業を進めた。私語や居眠り、携帯電話の使用に関しては、徹底的に注意をさせ、学生が授業に集中できるようにした。学生によるアンケート評価結果は、適切な評価だったと認識している。特に、授業では、予習や復習という課題をあまり与えてなかったため、点数が低かったと思われる。居眠りをする学生が何人かいて、注意しても寝る場合は、授業を優先的に進めたことも結果に現れたと考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

この授業では、社会福祉の理論や歴史、法律等より、今日の社会福祉問題に学生自身が興味を持って授業に取り組めるように授業の目標を設定し、学生も授業の目標とおりに社会福祉問題に非常に興味を持ってくれた。成績は、授業態度(出席とコメントカード提出)とレポート、テストで評価し、授業態度とレポートを重視した成績評価基準を設けた。授業参加、コメントカード提出、レポート提出、テスト結果を踏まえて、成績を評価し、単位を認定した。

4 授業改善の方法

講義後、学生にコメントカードを書いてもらい、そのコメントカードに私がまたコメントを書いて学生に返却する作業を続けていた。授業中に学生にコメントカードの内容を発表してもらったが、人前で発表することが苦手な学生が多く、途中で学生によるコメントカードの発表を中断した。そこで、できれば、学生同士が意見交換し、お互いに議論もできる授業にしたいので、小グループに分けて進めて行けるように工夫をしていきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 池内 ますみ **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食品材料学(加工学を含む) **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2150 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 34名 **回答者数** : 31名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	30	1	-	-	-	31	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.19						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.10						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.23						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 3.2%	やや 多い 16.1%	適切 80.6%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	-	4.32						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	4	4.20						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.19						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 38.7%	適切 であった 61.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.19						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.29						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.42						

1 授業の概要、特徴等

前期の食品科学に続く食品学の各論である。前期に食品の成分について学び、それを基礎として食品ごとの成分の特徴について理解することを目的としている。具体的な食品の話題になるため、前期よりはイメージしやすい。栄養士に求められる献立作成・栄養価計算のための基本的知識を修得する。

2 アンケート評価結果に対する見解

1時間目の授業だったため、若干遅刻が気になる学生がいた。事前に、食品群別に食品成分を調べて記入する課題を与えたが、授業の内容が理解できたか確認するための何らかの方法を検討する必要がある。文字や数字からイメージすることが苦手な学生が増えてきている。また、日常の食生活で、様々な食品を食べたり、見たりする経験が十分でない学生も見受けられるため、食育実践演習や調理実習とうまく連携をとる工夫が必要である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業は比較的スムーズに進めることができているが、授業内容が十分身に付いていない学生が増えてきている。まとめの試験等から、目標に到達できていないため再試験となった学生が2割強出てしまった。近年は輸入食材が多く流通するようになり、食品成分表に掲載される食品の種類も増えており、少しでも多くの話題を授業の中で提供し、知識を増やすことも必要であるが、最低限理解しなければならないことを押さえておくことも必要である。

4 授業改善の方法

15回の授業で栄養士カリキュラムに定められた内容を盛り込むだけでも時間十分ではないと感じているが、途中で理解度を確認する機会を設けることが必要である。課題等で工夫して復習の機会を作り、自分の理解度をチェックできるようにしたい。また、一方的に授業を受けるだけでなく、自ら学習する習慣を身につけられる工夫が必要である。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 島村 知歩 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 調理実習Ⅱ **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2260 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 34名 **回答者数** : 32名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	32	-	-	-	-	32	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.41	[Bar chart showing student average at 4.41]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.34	[Bar chart showing student average at 3.34]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.19	[Bar chart showing student average at 4.19]				
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても 多い 6.3%	やや 多い 25.0%	適切 65.6%	やや 少ない 3.1%	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.47	[Bar chart showing student average at 4.47]				
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.53	[Bar chart showing student average at 4.53]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.41	[Bar chart showing student average at 4.41]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 3.1%	やや 高かった 28.1%	適切 であった 68.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	4.35	[Bar chart showing student average at 4.35]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.50	[Bar chart showing student average at 4.50]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.55	[Bar chart showing student average at 4.55]				

1 授業の概要、特徴等

調理実習Ⅰに引き続き、日本料理、西洋料理、中国料理の特徴、基礎を学ぶ。また、旬の食材や食材の選択方法、取り扱い、組み合わせ、調理特性などを学ぶ。2回生の給食管理実習での大量調理も意識し、大量調理での違いや作業の効率化など栄養士として応用・実践する力を合わせて養う。クリスマスやお正月などの行事食も取り入れた。実習では、各回3~4品調理する。調理方法、食材などの説明→調理→試食→片付けで行った。

2 アンケート評価結果に対する見解

前期の調理実習よりも受講者が約2倍になっているので、最初の説明時には皆がメモをとりながら話を聞いているか確認し、特に後方に着席している学生を意識しながら、説明するように心がけた。ただ、言葉だけで解説するのではなく、器具や食材を見せながら視覚でも確認でき理解が深まるようにした。設問②の予習・復習をしましたかの学生評価は平均より低い結果となった。復習はレポート作成時に各自行っているが、予習は次回の実習内容の予告をして、次回の説明時により理解を深められるようにしていく必要があると考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、各人の調理技術の差がある状態である。実習は、どうしても得意な、料理が好きな学生がつつい多く作業をしてしまいがちだが、各料理の担当者を決め、苦手な学生にはできるだけ調理に関わってもらうように声掛けをした。単位認定は、要所で行う実技テスト、最終回に実施した実技・筆記試験で個々のレベルを確認し、学生自身も自分の能力を知る機会とした。

4 授業改善の方法

実習は限られた時間内に、料理ができあがり、試食、片付けまで完了することを第1に考えていたので、グループのメンバー構成もそのことを軸に組んでいた。また、調理ができる人の姿、動きを見ることが苦手な学生の勉強に、得意な学生にとっては教えることがプラスになると思っていたが、自由記述欄にあるように、出来る学生に頼ってしまうことも多くあるので、苦手な学生に自分の能力を意識してもらえそうな場面ももう少し作り、試験以外でも危機感を持ってもらえるようにしていきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 三浦 さつき 職名 : 准教授 所属 : 生活未来科
 科目名称 : フードスペシャリスト論 科目群 : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
 授業コード : 2410 授業形態 : 講義 受講者数 : 30名 回答者数 : 29名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	29	-	-	-	-	29	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.07					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	2.97					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	5	4.17					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い 6.9% やや多い 31.0% 適切 58.6% やや少ない 3.4% とても少ない - 無回答 -					
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.38					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.52					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.21					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切であった	非常に高かった 10.3% やや高かった 37.9% 適切であった 51.7% やや低かった - 非常に低かった - 無回答 -					
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.17					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.21					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.31					

1 授業の概要、特徴等

フードスペシャリスト資格の必修科目であり、食生活に関する内容に加えて、フードスペシャリスト資格に関する内容を扱う概論的な科目である。基本的には、テキストに沿って、スライドでまとめを示し、ノートを写す時間も設けて授業を進めている。食物栄養コース1回生のほとんどの学生が履修しており、前期で学んだ授業内容も意識して発展的に説明するように心がけている。

2 アンケート評価結果に対する見解

課題として、食産業に関わる店舗の調査に関するレポート、食安全に関するキーワードを本や雑誌、インターネットなどを活用して調べるレポートを出した。提出期限に出せない学生もいたが、内容については、実際に店舗で写真を撮ってきたり、食安全について詳しく調べたりする学生が多く、アンケート結果においても、課題に取り組んだという自己評価は全体平均よりも高かった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度に加えて、課題レポートや課題プリントの取り組み、期末テストの成績により、総合的な評価をしている。期末テストでは、2回生で受験するフードスペシャリスト認定試験の内容もふまえた内容を問い、フードスペシャリストに必要な知識が身についたかどうかを筆記試験により確認している。

4 授業改善の方法

自由記述でまとめのプリントがほしいとの要望があったため、テスト直前の1回は、まとめの課題プリントを準備して、調べながらまとめる時間を設けた。予習・復習をしたかどうかの質問結果が低かったため、もう少し授業での働きかけを行うことにより、2回生での認定試験でも学びを生かせるようにしたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 臨床栄養学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2185 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 28名 **回答者数** : 22名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	22	-	-	-	22	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.64	[Bar chart showing distribution]					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	2.41	[Bar chart showing distribution]					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.57	[Bar chart showing distribution]					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 多い	とても 多い - やや 多い 9.1%	適切 81.8% やや 少ない 9.1% とても 少ない - 無回答 -					
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.41	[Bar chart showing distribution]					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.36	[Bar chart showing distribution]					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.27	[Bar chart showing distribution]					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 13.6% やや 高かった 31.8% 適切 であった 50.0% やや 低かった - 非常に 低かった - 無回答 4.5%						
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.41	[Bar chart showing distribution]					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.27	[Bar chart showing distribution]					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.18	[Bar chart showing distribution]					

1 授業の概要、特徴等

栄養食事療法が予防や治療に深く関わっている疾病を中心に 病気の原因や実際の臨床症状について説明しました。教科書の内容から特に重要な事項について プリントでまとめて知識を整理できるようにすすめました。また最新の話題などもできるだけ取り入れるよう努めました。

2 アンケート評価結果に対する見解

興味を持って授業に参加した学生が多くうれしく思います。プリントにまとめにくい授業展開があったということなので、改善していきたいと思います。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

興味を持って授業に参加していることを平常点としました。成績評価の90%は筆記試験の成績としました。基本事項を理解していることを単位認定基準とし、全員が単位を取得できました。

4 授業改善の方法

プリントの内容を練り直します。同時に重要事項の板書による確認を増やしたいと思います。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : カラーコーディネート演習 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3430 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 22名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	-	-	-	-	13	5	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.89					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.89					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.17					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い 5.6%	やや多い 22.2%	適切 72.2%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.17					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.22					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.41					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	非常に高かった 5.6%	やや高かった 55.6%	適切であった 38.9%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.94					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.22					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.22					

1 授業の概要、特徴等

“色”は、生活のあらゆるシーンで影響をおよぼしている。色の違いがわかること、それぞれの“色”が果たす役割を知ること、色がなぜ見えるのかを考えることなど、色彩の幅広い基本的な知識を理解し、東京商工会議所のカラーコーディネート検定3級の合格を目指す。それぞれの内容を短く区切りながら説明をし、その後に練習問題を行い理解度を確かめながら進めている。

2 アンケート評価結果に対する見解

全体平均よりやや劣るが、“予習・復習をしましたか。”、“課題にきちんと取り組みましたか。”の質問には、平均より上回っていた。この授業に一生懸命に取り組んだことが分かる。説明を聞いてから、問題を解く形で進めているが、問題を解く段になると、教科書を一生懸命に読み進めており、説明で足りなかった所は、教科書で自らの力で学んでいた。授業の進め方には、もう少しゆっくりと説明をしていかなければならないと反省している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

東京商工会議所のカラーコーディネート検定3級の合格を目指しているため、3級を合格すれば、A○としている。また、授業の最後にカラーコーディネート検定3級程度の試験を、検定の書式に従って行い、その内容が理解でき、レベルに到達しているかどうかを判定している。また、その結果とともに、出席状況や授業中真面目に取り組んだかを加味し評価している。

4 授業改善の方法

目標が明確であり、その目標に達するように授業を進めている。その内容を理解できているかどうか練習問題で確認しながら進めているが、目標が学生にとって高いと感じるならば、難しく感じる授業となっている。アンケート結果では、受講生の約4割が授業のレベルが適切であり、6割がレベルが高いとなっている。検定試験結果では、そのアンケート結果通り、合格率が40%である。目標は定まっているので、授業が難しく感じている学生を、適切に感じるように授業の工夫が必要である。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 経営学総論 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3150 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	2	-	-	-	-	6	2	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均						
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	3.75	[Bar chart showing student average at 3.75]					◇					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.00	[Bar chart showing student average at 3.00]					◇					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.50	[Bar chart showing student average at 3.50]					◇					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	3.75	とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答	[Bar chart showing student average at 3.75]				
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.25	[Bar chart showing student average at 4.25]					◇					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.50	[Bar chart showing student average at 4.50]					◇					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.50	[Bar chart showing student average at 4.50]					◇					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	非常に高かった	3.75	非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	[Bar chart showing student average at 3.75]				
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.25	[Bar chart showing student average at 4.25]					◇					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.25	[Bar chart showing student average at 4.25]					◇					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.25	[Bar chart showing student average at 4.25]					◇					

1 授業の概要、特徴等

この科目では、経営学の理論を体系的に学ぶ事よりも、学生を取り巻く生活の中で彼らを支えるビジネスの枠組みに特に関連性の高い理論やエッセンスをピックアップして取り上げ解説した。戦略、組織、IT、人材育成について、履修学生全員をある企業の組織と仮定して、学生の発想力や視点から「あるべき姿」を考えさせる事を目指した。

2 アンケート評価結果に対する見解

本科目と領域は、4年制大学生や社会人大学においても学習されているもので、理論を体系的に学ぶには時間とある程度の実務経験が必要である。この難易度の高い学問領域を学習することが、将来の就職先や担当するであろう職務内容と直結する可能性が低いので、わかりやすい解説を試みたが、難易度が高かった。経営学の基礎理論では多くの専門用語が多く、学生には馴染みの少ないものばかりなので、事前の予備知識が乏しいことも本科目の難易度を上げる事に起因した。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本学の教育理念「一、自律する人 二、自己と他者を尊重する人 三、事象に自ら関わる人」になるために必要な力として、集中力、勤勉性、コミュニケーション、発想力を評価することとした。その評価機会として、講義への出席回数、講義態度、コメント、プレゼンテーション、小レポート、テストに分けて客観評価を行い採点し、単位認定に結びつけた。ビジネスの「競争優位」を自分なりに設定させることにより、ビジネスへの関心と独創性の有無を特に評価した。

4 授業改善の方法

経営学の理論を体系的に学ぶことは、時間を要し現コマ数ではカバーしきれない。さらに選別したテーマ設定での講義進行と、学生の進路先の業務と直結した解説が必要だ。他の科目とも連動し関連付けしやすいように、マーケティング系の内容を盛り込む事で、ビジネスの現場で求められるポイントを学び、市場や消費者を起点にした新しい手法を考え、お客様の事を考える経営感覚を養えるように指導する工夫をして、将来の仕事に活かせる能力を身に付ける機会とする機会にしたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 佐藤 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 経理実務Ⅱ **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3170 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.20						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.60						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	と ても 多 い	や や 多 い	適 切	や や 少 な い	と ても 少 な い	無 回 答	
			-	40.0%	60.0%	-	-	-	-
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.60						
	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.00						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.60						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高 か っ た	非 常 に 高 か っ た	や や 高 か っ た	適 切 で あ っ た	や や 低 か っ た	非 常 に 低 か っ た	無 回 答	
			20.0%	20.0%	60.0%	-	-	-	-
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.60						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.60						

1 授業の概要、特徴等

後期では、前期に引き続き簿記の講義を行うとともに、実務で役立つ数字の読み方や会計ソフトの使い方、経営分析の仕方を身につけてもらうことに重点を置いた。具体的には、学生の一人が開発した会計ソフトを使ったデモンストレーション、興味のある企業の分析及びプレゼンテーション(グループワーク)などを行い、座学にとどまらない講義を心掛けた。

2 アンケート評価結果に対する見解

概ね妥当だと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

一年を通じて、「実務に役立つ経理の感覚」を身につけてもらうことに力点を置いたが、完全に腑に落としてもらえたとは言えないまでも、数字感覚を身につけてもらうことはできたと考える。また、簿記検定3級の受験に関しては、試験範囲は網羅したものの、合格のためには一層の各自のトレーニングが必要と考える。

4 授業改善の方法

理解度の個人差が大きい分野なので、それぞれの理解度を把握しながらきめ細かなフォローをしていきたいと考える。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I (ピアノ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55303ab・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学 年				学 科 ・ コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	12	1	-	-	-	-	-	13	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.08						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.92						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.92						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 15.4%	やや 多い 15.4%	適切 69.2%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.62						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気が乱れないように注意を払っていましたか	5	4.54						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.62						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 30.8%	適切 であった 61.5%	やや 低かった 7.7%	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.54						
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.46						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.46						

1 授業の概要、特徴等

幼児のための曲を弾き歌いできるようにピアノ技術の習得 読譜 表現力を身に付ける また しっかりと大きな声で弾き歌いを経験させ 次年度の表現の授業にスムーズに移行し、実践でそれが充分出来るように しっかりと基礎力をつけさせる 今年度より 教材が変わり曲に追われてしまうことはなくなったが 段階を踏まず ケーラーをいきなり弾くことが困難な学生も多々見受けられた 譜面を見ず丸覚え式に とにかく弾いた学生もいた 反面曲数が減り 強弱や表情記号に気を配りしなやかに曲を表現している学生も多くいた パーナムの取り扱いが結構難しく 弾ける学生が全く弾いて来ない 初心者で進まない学生は手が回らない 工夫が必要である 時間が短く沢山の課題がてんこ盛りで 1人当たりに時間ももっと欲しいと思った

2 アンケート評価結果に対する見解

一回生は例年より皆熱心に取り組んでいた 教に追われないので 楽しんで練習していたように思う 難しい曲を最初から弾かねばならないため緊張感があった 又 すねたり文句を言ったりする学生が私のクラス 1回生にはおらず 穏やかに授業が出来てよかった

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

最初会議で決まった曲数がどんどん減っていったことは 初心者には助かったけれど 弾ける学生が ノルマ曲数達成したら、それ以上取り組もうとしないなど問題があった レベル1 初心者 2 経験者 位の分け方で曲数を変えたりしてもよいかと思った しかしテストでは みな結構上手に弾いていたのでよかった

4 授業改善の方法

3にも書いたが 2段階くらいのレベル分けをしても良いかと思う 弾き歌いの曲の数などに変化を持たせて 皆が頑張るようなカリキュラムがあればいいと思う 結構弾ける子がさぼって適当に取り組んでいた。特にパーナムの取り組みに問題があり なんの為の曲か考えず 初見で弾いて終わらせようとする傾向があった

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 本間 晶子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I (ピアノ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55303bd・cc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.69					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.62					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.77					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切	とても多い 7.7% やや多い 76.9%	適切 15.4%	やや少ない -	とても少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.77					
授業の進め方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.54					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.77					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった	非常に高かった 23.1% やや高かった 46.2%	適切であった 30.8%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.46					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.38					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.31					

1 授業の概要、特徴等

「バーナムピアノテクニックⅠ」「ケーラー：こどものためのアルバム」「こどものうた200」を教材とし、45分のグループ学習プラス個人レッスンで構成される。グループ学習では、楽譜の内容を確認し、練習方法、発声、和声伴奏法等を学ぶ。更に、個人レッスンで演奏を仕上げるべく指導が行われる。各個人の進度に合わせた、きめ細かい指導が可能である。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講態度に関するアンケート回答が少々残念な結果であった。予習・復習・課題への取り組みが充分ではなかったと自覚する学生が半数近くにも達している。ピアノ実技教科においては、授業時間外の取り組みがいかに大切であるか、懸命に訴え続けたつもりであったが、学生のモチベーションを高め続けることの難しさをあらためて認識した。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

保育現場で実践できるように必要なピアノの基礎技術を獲得し、初級ピアノ曲を表情豊かに演奏したり、こどものうたを弾き歌いする方法を学ぶことを授業目標としている。目標達成として、1年間にピアノ曲・弾き歌い曲を基準数以上仕上げることを課す。そのうえで、最終週に実技試験を行い、その試験結果に平常点・達成点を加えて、成績評価基準とする。

4 授業改善の方法

2012年度は、授業内容を一新した初年度であった。新しい取り組みが、実際に前年度までよりも効を奏したか否かを判断するのは早急であろう。改善を見据えた考察点としては、＜グループ学習と個人レッスンの効率的役割分担＞と＜教材の選択・進め方＞の2点かと考える。「バーナムピアノテクニックⅠ」教材の奏法説明や、弾き歌いの和音伴奏解説等をグループ学習で担い、できる限り個人レッスンの時間を確保したい。また、進度で縛らず、反復復習で実力をつけてもらいたい「バーナム」教材を学生に浸透させられるか。本当の意味でピアノの実力をつけるには大変優れた「ケーラー：こどものためのアルバム」教材を、促成を必要とされる初心者がいかに生かしきれぬか。このあたりが当面の課題かと思われる。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 澤田 博 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習Ⅱ(理論) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55411aa・ab・ba・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 82名 **回答者数** : 68名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	60	7	1	-	-	-	-	67	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.41						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.68						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	3.65						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い 22.1%	やや 多い 41.2%	適切 36.8%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	3.12						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	3.74						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	3.88						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 36.8%	やや 高かった 44.1%	適切 であった 19.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	3.15						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	3.76						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	3.44						

1 授業の概要、特徴等

楽譜の情報を理解し、自分で楽譜を読んでピアノを弾いたり歌を歌ったりすることができるようになることを目標としている。そのため、楽譜を書くだけでなく、EP教室で鍵盤を使って実際に音を出して確認する作業を取り入れている。中学・高校で読譜の体験がほとんどないため、あるいはピアノを長期間習っている学生でも、楽譜の情報を理解することに相当苦労している。時間数の関係で初歩的な範囲に限定されるが、かなりの学生にとって聞いたことがない、忘れていた内容である。

2 アンケート評価結果に対する見解

課題の量は、学生のレベルを考えれば最低限に抑えている。「予習・復習をした」「課題に取り組んだ」学生が3.6ポイント超もいたという結果に驚いている。「説明がわかりにくい」という自由記述が多いのは、論理的に思考する経験が乏しいためと判断している。レベルが高いまたは高すぎるという回答が多い割には、満足度は低くないと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

楽譜を書くのに時間がかかり、予定の範囲まで進めることができなかった。「ピアノを弾く、歌を歌うのに、楽譜の学習は必要と思わない」学生が多い故に、取組姿勢がよろしくない。成績評価については、ごく基本的なことが解っていり(そうである)範囲で単位を認定した。

4 授業改善の方法

1 今年度から鍵盤を目の前にした授業に切り替えた。すぐに音を出して確認できる長所を授業に活かすよう工夫を図る。 2 重要な語句・記号の説明を高等のみならず、板書してノートに書き取らせる。 3 ひらがなやカタカナの字形を正しく書く(書かねばならない)ことの意義を、さらに強調する。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 大城 弓恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅲ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55320bc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	4	-	-	-	-	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.75		[Progress bar to 4.75]				
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.50		[Progress bar to 4.50]				
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.50		[Progress bar to 4.50]				
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	-	100.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.75		[Progress bar to 4.75]				
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.75		[Progress bar to 4.75]				
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.75		[Progress bar to 4.75]				
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
		25.0%	50.0%	25.0%	-	-	-		
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.75		[Progress bar to 4.75]				
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.75		[Progress bar to 4.75]				
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	5.00		[Progress bar to 5.00]				

1 授業の概要、特徴等

音楽Ⅰの単位を修得した学生を対象に開講される通年の選択科目である。音楽Ⅰで学んだことを基に、演奏技術や音楽表現の更なる向上を目標としている。採用試験対策として、試験で演奏する曲を準備し、初見演奏にも取り組む。授業は個人レッスンで行われる。

2 アンケート評価結果に対する見解

選択授業ということで、意欲のある学生が受講していたことが受講態度や総合評価が高かったことに繋がっているように感じる。個人レッスンで各学生に応じたレベルの曲に取り組むので、理解もしやすいのだと思う。ただ、中には履修はしたけれど欠席が多く無資格になってしまう学生もあるので、このアンケートは単位を修得した学生に限りということになる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成は各自の能力に応じた曲に取り組み、授業内で課題曲数を合格する。また初見演奏の練習も達成課題となっている。課題曲数を超えて合格した分については達成点が追加される。成績は、課題を達成した学生について試験点や平常点、達成点を総合的に評価する。

4 授業改善の方法

学生によっては急に採用試験が決まり曲を準備しなくてはいけない状況もあるので、早い段階から一緒に準備していくことや、採用試験(受ける予定や試験概要)の情報を知っておくことが必要なのではと思う。また来年度からは半期構成になるので採用試験との兼ね合いを考え、学生にとって更に有効な授業にしていきたいと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 石原 興子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 器楽合奏 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55330 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 24名 **回答者数** : 20名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	20	-	-	-	-	-	20	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.05						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	2.95						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.75						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	5.0%	95.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.25						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	3.90						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.15						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			-	10.0%	85.0%	5.0%	-	-	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.95						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	3.90						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	3.90						

1 授業の概要、特徴等

器楽アンサンブルの演習。様々な楽器に触れることから、グループで協力して演奏する体感を通して、アンサンブルの楽しみや幼児教育の中での役割を考察する。様々なアンサンブル形態を知り、創意工夫する力を養う。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業内ではまじめに取り組んではいたが、決まった一部の学生に遅刻欠席が目立って、全体からの遅れにバランスがとれなかったように思われる。その学生にとって達成感を味わうまでに至らなかったのではと考える。全体的にはきちんと取り組んでいると思われた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標はおおむね達成していたと思われる。特に、学生が主体的に取り組むグループ活動は学生自らの潜在力を発揮できる場になって達成感もあったように感じられた。成績は、授業の出席状況、意欲、授業内課題、発表とレポートを総合的に評価。上記を踏まえて単位認定した。

4 授業改善の方法

今期でこの講義は終了になるが、幼児教育保育の現場で欠くことができない音楽を通して子どもと関わるために今後も最低限の知識や技術を身につけておくことは必要と思われる。そのためにも単に技術や知識に留まらず、関わる大人が音楽を通して子どもを理解できるツールとして、何より子どもが音楽によって生き生きできる表現ツールとして、学生自らがグループロールプレイの中で多様な演習体験によって、感じとることは必須に思う。今後この授業の反省点を踏まえて他の授業にも生かしていきたいと思う。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 尾崎 剛志 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 更生保護制度 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 1740 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	3	1	-	-	-	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.75						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.50						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.25						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	とても 多い	とても 多い	やや 多い	適切 100.0%	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.75						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	3	4.25						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.00						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	非常に 高かった	非常に 高かった	やや 高かった 25.0%	適切 75.0%	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.75						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.75						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	2	4.75						

1 授業の概要、特徴等

「更生保護の概要について理解が出来る、様々な手続きや専門機関、専門職種について簡単な説明が出来る。また現在の社会における更生保護の位置づけや意義、課題等について自分自身の問題意識を持つことが出来る」を授業内容として挙げている。これを補足するために、VTRの視聴を見学実習の前に組み、その後保護観察所に行き、そこでさらに補足の説明や改めて、更生保護制度の全体像を説明していただき、具体的な流れについて話を聴く機会を設けた。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講態度について、学生自身の評価が低いのは、自分たちの授業に取り組む姿勢を客観的に評価できていないのではないかとと思うが、反面では、それほど厳しい指導を授業中にしていない事も要因としては挙げられる。分かりやすく伝える努力はしたつもりではあるが、学生の評価とは異なり、おそらく理解するには至っていないと思われる。最初からレジュメにそって授業の進行を行ったため、学生の理解度に合わせるための修正をかけることが困難であった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

全体の目標達成には、十分出来ているとは言えないと思われるが、科目としてはギリギリ全員が試験の時点では達成できていたのではないかとと思われる。

4 授業改善の方法

2年連続してレジュメを使用した授業方法を展開してみたが、進む範囲が明確である反面、あまり横道にそれたり、補足したりするだけの余裕がなく、学生が興味関心を持ちにくかったのではないかとと思われる。ただ、見学に行くことについては学生の関心を強めるために効果的であると思われるため、次年度以降も組み込んでいきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 山口 直範 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 社会的養護 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51061ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 77名 **回答者数** : 65名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	61	3	-	1	-	-	-	62	-	-	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.12						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.63						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.82						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 4.6%	やや 多い 23.1%	適切 72.3%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.49						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.55						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.55						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 7.7%	やや 高かった 40.0%	適切 であった 52.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.34						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.46						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.38						

1 授業の概要、特徴等

児童養護に関する基本的考え方や援助者としての在り方について事例を通じて分かりやすく解説した。児童福祉施設の種類、児童虐待の現状、障害児(者)の特性の少尉会などが主な内容である。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生からの評価はおおむね平均値であった。以前も述べたが、評価者が適切に評価できるのかが疑問であるため、参考意見として受け止めておくこととする。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

テストの点数を取ることが目的ではなく正しく養護を理解しているのかに重点を置いて評価した。そのためテストには出題されなかったけど、勉強してきた専門用語があれば裏面に記述するように指示した。記述された内容は学生が学んだ証として加点した結果、合格者が多くなった。

4 授業改善の方法

学生は事例には興味を持って食いついてくるのだが、基礎理論を学ぼうとしない傾向がある。そのため、浅い知識ですべてを知ったような勘違いやーを聞いて十を知るかのごとく勘違いしていた者がいることがテスト結果からわかった。誤った知識の獲得は間違った援助にもつながるため、十分配慮と確認をしながら講義を進めていきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 中村 恵 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育原理 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51051ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 84名 **回答者数** : 72名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	64	8	-	-	-	-	-	72	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.53						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.75						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 2.8%	やや 多い 48.6%	適切 47.2%	やや 少ない 1.4%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	3.99						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.18						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.09						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 47.2%	適切 であった 40.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 1.4%	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	3.94						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.08						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.00						

1 授業の概要、特徴等

保育の意義について理解をし、その背景にある保育思想や歴史の変換について学ぶ。また、幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容を理解し、保育の現状と課題について考察できるような内容としている。特徴として、グループごとのディスカッションや課題作成を通じて、自ら情報を得て、お互いに発表しあうことを通して主体的な学びを得るようにしている。

2 アンケート評価結果に対する見解

グループでの課題は与えているが、個人的に予習復習が必要な授業デザインは行っていないため、学生自身も特に必要性を感じていなかったと思う。段取りが悪いという指摘があったが、教室のプロジェクタが故障していて、利用できなかったなど、教室環境に起因することもあるので、通常の問題なく利用できる環境についても整備を進めていただきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

おおむね目標は達成できたと考えている。評価基準及び単位認定もおおむね予定通りできた。

4 授業改善の方法

学生の居眠りや私語に対しては、できるだけ自主的に改めることができる働きかけが必要だと考えている。携帯電話を授業で活用する方法は例年取り入れているが、娯楽ではなく学びのツールとして活用できるように今後も取り組んでいきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 片岡 三和 職名 : 教授 所属 : 地域こども学科
 科目名称 : 保育(言葉) 科目群 : 地域こども学科 専門教育科目
 授業コード : 53130ab 授業形態 : 演習 受講者数 : 77名 回答者数 : 67名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	63	3	-	1	-	-	-	65	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.57						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	2.94						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	3.63						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	11.9%	86.6%	1.5%	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.67						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	3	4.49						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.85						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			7.5%	22.4%	70.1%	-	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	4.48						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.40						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.48						

1 授業の概要、特徴等

○領域「言葉」を展開し、幼児が力を獲得していくために幼児期になくしてはならないものを伝えています。

2 アンケート評価結果に対する見解

○教員(私)はいつも熱意を伝えたいと思い臨んでいるし、理解度も学生の様子をみながら、指導計画を立てています。学生に聞いたことと、教員に聞いたことが同列に直接的に並べられていることに疑問を感じますが。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

○伝えなければならないこと、伝わらなければならないことは温度差や理解度の差は認められますが方向としては、掴んでくれたと思っています。○「何をどれだけ記憶できたのか」ではなく、「どれだけのことを心に刻めたのか」また、「どれだけ思いを持って子どもの前に立てるのか」ということに重点を置いています。○私の授業は現場で生きるものとして位置付けたいと思っています。更に現場に出て行った卒業生たちの思い等にも触れていきたい。

4 授業改善の方法

○90分間聞くだけの授業より、途中参加型にしたり、絵本を入れたり工夫を凝らし訴えた。○日々、更に努力いたします

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 石田 裕子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育実習指導Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 57212 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 44名 **回答者数** : 38名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	38	-	-	-	-	-	36	-	-	2

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均							
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	5	4.55	[Bar chart]					[Bar chart]						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.89	[Bar chart]					[Bar chart]						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.42	[Bar chart]					[Bar chart]						
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	適切		とても多い	やや多い	適切	やや少ない	とても少ない	無回答	-	21.1%	78.9%	-	-	-
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.58	[Bar chart]					[Bar chart]						
授業の進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	5	4.82	[Bar chart]					[Bar chart]						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.68	[Bar chart]					[Bar chart]						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや高かった		非常に高かった	やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	5.3%	34.2%	60.5%	-	-	-
総合評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.65	[Bar chart]					[Bar chart]						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.76	[Bar chart]					[Bar chart]						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.66	[Bar chart]					[Bar chart]						

1 授業の概要、特徴等

保育実習の目的と意義を理解し、意欲的に実習に取り組むことができるようにする。また自己を振り返り、自己の課題を明確にするために、ワークシート、グループディスカッションを取り入れながら行っている。また実習に向かうため、マナーや社会人としての心構え等を身につけられるよう、授業内でのルールや、遅刻欠席についても厳しく指導を行っている。

2 アンケート評価結果に対する見解

他の実習指導科目を受講してきて2回生の後期の授業のため、受講態度は学生の評価通り、非常によいと言える。授業の目的が明確かつ、実習に直結している科目であるため、取り組みやすかったと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は以下の5つであった。 1. 保育所実習の目的と意義を理解する 2. 保育実習に意欲的に取り組み、保育実習の目的・内容を理解する 3. 自己を振り返り、自己の課題を明確にする 4. 保育実習の心構え、注意点を理解し、実習に向けての事務連絡及び諸手続きを行う 5. 保育所保育士に求められる資質について考える そのうち、5の資質についてはグループワークを行いながら自己の課題と関連付けて考えるように授業を行った。評価の基準は課題に取り組む姿勢、課題の内容、最終の実習報告会での発表レジュメも評価の対象とした。また授業担当者間で、評価を突き合わせて、評価決定、単位認定を行った。

4 授業改善の方法

現段階では特に問題はないと思われる。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 石田 伸子 職名 : 非常勤 所属 : 地域こども学科
 科目名称 : 保育相談支援 科目群 : 地域こども学科 専門教育科目
 授業コード : 53311ab 授業形態 : 演習 受講者数 : 64名 回答者数 : 45名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	44	1	-	-	-	-	44	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	3.69						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.16						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.60						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 6.7%	やや 多い 15.6%	適切 75.6%	やや 少ない 2.2%	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.11						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.11						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.07						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 2.2%	やや 高かった 26.7%	適切 であった 68.9%	やや 低かった 2.2%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.00						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.31						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.16						

1 授業の概要、特徴等

現代社会が抱えている問題は多種多様で、それぞれ異なった環境の中で子育てに不安を抱える保護者が増加している。保護者の声に耳を傾け、個々に合った適切な対応・援助ができる専門知識を身につけた信頼のおける保育者の存在が必要となる。具体的な事例や、ビデオを通して、相談者としての基本的な知識・態度を学び、自主的な議論の中から自分で考える力をつけていく。

2 アンケート評価結果に対する見解

具体例を多く取り上げたり、主体的な話し合いなどで興味を持てるように努力をしたが、それぞれの理解力の差が大きく十分理解できていない学生がいることに気づき、それぞれに合わせた内容の必要性を感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスに沿って講義を進め、基本となることは伝えられたと思う。保育相談支援に際し、保育者としてなすべき事柄が理解できているかを評価基準とし、日々の学習態度、グループでの討議の内容、レポート及びテストの結果で単位を認定した。

4 授業改善の方法

グループでの話し合いはそれなりの成果があるようなので、継続していきたい。個人差が大きく、理解できている学生にはそれなりの課題に取り組めるよう配慮しながら、理解の遅い学生にはもう少しペースをゆっくりと確認しながら授業を進めたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 大西 有紀 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽Ⅱ・I再) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53170ab・cb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 10名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	10	-	-	-	-	-	10	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.20						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.90						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.70						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 10.0%	やや 多い 30.0%	適切 60.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.80						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.70						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 30.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.70						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.60						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.40						

1 授業の概要、特徴等

個人レッスン、EP教室での集団レッスンの2つの形態で行う。保育現場で即戦力となれるよう歌唱+ピアノを学ぶ。個人レッスンの為、各自のレベルに応じた細やかな指導をすることができる。

2 アンケート評価結果に対する見解

授業レベルが高いと感じている学生が多かった。しかし実際の現場では授業内容よりも更に難しい曲が要求されることも多い。学生のピアノレベル向上を目指し指導に取り組むたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題曲を全て合格すること。授業態度、出席状況、定期試験での演奏等をふまえて総合的に判断する。

4 授業改善の方法

ピアノの上達は日々の練習の積み重ねが大切である。授業では個々のレベルに沿った細やかな指導、反復練習を徹底させたい。授業以外での練習に積極的に取り組むようねばり強く指導してゆきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽Ⅱ・Ⅰ再) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53170ad **授業形態** : 演習 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 3名

回答者 内訳	学 年				学 科 ・ コー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.67						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.67						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 33.3%	やや 多い -	適切 66.7%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	5.00						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	5.00						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.67						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった -	適切 であった 100.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	5.00						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.00						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	5.00						

1 授業の概要、特徴等

1回生で学んだピアノ演奏をいかし、保育の現場で実践できる能力(弾き歌い)を身につける。歌詞の意味を理解し、楽譜の音高で歌えるようにする。保育(表現・音楽Ⅰ)を前期に履修し、合格者は保育(表現・音楽Ⅱ)へと進み、不合格者は保育(表現・音楽Ⅰ)を再履修する。各グループを前半後半に分け、レッスン受講とEP教室でのグループ学習を45分交代で行う。レッスンとグループ学習の両方を出席して1回の出席となる。どちらかに10分以上遅刻した場合は欠席とする。

2 アンケート評価結果に対する見解

評価項目①、③について全体平均を下回っており、前期の結果と比べても少し気の緩みがみられた。原因としては受講者数が減り、45分間マンツーマンレッスンになることが多く、練習してきたものを発表するのではなく、授業時間に練習し合格を貰おうという考えが目立ったことによるものだと考える。⑧の結果からもわかるように、今年度は表現・音楽Ⅱの課題曲数や、課題曲を表現・音楽Ⅰの課題曲からも認めたことによって、例年よりも無理なく授業が進められたのではないと思う。しかし、そのために少し難しいところに挑戦するということが減ってしまったため、⑩の平均値が下降傾向にある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題曲数を設定し全て合格していることを前提に、出席率、平常点、試験点により成績評価する。

4 授業改善の方法

この授業においては、課題曲表の中から選択し、取り組むことができるので学生の能力、状況から適切な曲選びを心掛けたい。現場では子供たちの様子を見ながら実践しないといけないということを意識させ、もう一度この授業の重要性を再確認して取り組むよう促したい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 中島 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽Ⅱ・Ⅰ再) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53170bc・cd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	8	1	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.00						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	3.56						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.56						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	44.4%	55.6%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.89						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.89						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.89						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			11.1%	44.4%	44.4%	-	-	-	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	4.89						
総合 評価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.78						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.56						

1 授業の概要、特徴等

子供の歌をピアノを弾きながら歌う。半年の授業。前期に表現Ⅰを単位取得した学生は次のレベルを、取得出来なかった学生は再度受講し直しする。45分間の個人レッスンと45分間のクラス授業を行う。これにより、授業時間を充分活用する。

2 アンケート評価結果に対する見解

個人レッスンなので、こちらの意図を伝え易いと感じる。ある程度、授業の必要性、練習の必要性、練習の方法、問題点の把握が出来ていると思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生の時期に多くの曲に接する、そして大きな声で歌える様になる事が目標。期末試験、規定課題曲の合格、平常の努力を絶対評価する。

4 授業改善の方法

多くの学生の取り組み不足が最大の課題である。ある程度細かく付き合うと、取り組む手掛かりとなる。個人個人の状況をよく把握し、段階を追って力向上に努力する。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽Ⅱ・I再) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53170ae・bd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	3.89						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.56						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	3.56						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切		とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答
				-	-	100.0%	-	-	-
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.33						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.11						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.00						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった		非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答
				-	22.2%	77.8%	-	-	-
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.11						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.11						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.11						

1 授業の概要、特徴等

童謡の弾き歌い *大きな声で歌いながら童謡の伴奏付をする。 *左手はカデンツを用いて伴奏付をする。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生が興味をもって課題に取り組めるよう、曲の成り立ちや言葉の解説など色々な言葉かけをしていますが、なかなか予習や復習に結びつかないのが現状です。学生がこの曲が弾きたいと意欲を持てるよう更に努力をしたいと思います。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

決められた課題曲数を全て合格し、課題となる曲を試験で弾き歌いする。大きな声で歌えたか。演奏にミスはなかったかを複数の講師で採点し平均点を出す。平常点も加味される。

4 授業改善の方法

学生に、時間のかかるピアノの練習に興味をもたせ、学生一人に対して複数の講師が関わって、E P教室もうまく活用しながら、授業を行いたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽Ⅱ・Ⅰ再) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53170be・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 10名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	10	-	-	-	-	-	9	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	4	4.60						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	4	4.40						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.40						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い	やや 多い	適切	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
			-	10.0%	90.0%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.90						
	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.60						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.70						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			20.0%	30.0%	50.0%	-	-	-	
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.90						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.70						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.80						

1 授業の概要、特徴等

「保育(表現・音楽Ⅱ)」を受講する学生は、前期のⅠの学修を踏まえ、より音楽的な演奏ができるよう、表現の幅を広げる内容の課題に取り組む。「保育(表現・音楽Ⅰ再)」を受講する学生は、未修得の曲に取り組んだうえで、より多くの課題に取り組んでいく。授業は個人レッスン45分と、E P教室でのグループ学習45分で構成される。

2 アンケート評価結果に対する見解

Ⅱは選択科目であるが、学生は概ね意欲を持って受講していた。またⅠ再の学生も単位取得への強い意識を持っていたので、それが受講態度や総合評価の結果に反映していると思われる。授業を進める中で、「もっとピアノを頑張らなければ!」と思った学生がいたことは成果と受け止め、今後の指導につないでいきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題表にしたがい、Ⅱは選択必修5曲+自由選択5曲の合計10曲以上(うち5曲は暗譜)の合格をめざす。曲想を考え、その曲に合った歌い方で弾き歌いすることで合格となる。Ⅰ再は前期の続きに取り組み、そのうえであと2曲以上弾き歌いを追加して合格となる。試験は、合格した曲の中から1曲を演奏する。

4 授業改善の方法

来年度は、ⅠⅡとしての開講ではなく半期だけの開講となるので、学習内容の質と量を共によく吟味して、より学生の力に応じたものとしていく必要が有ろう。こどもの歌への理解を深め、しっかりと弾き歌いの力をつけることで、現場で自信をもって保育できるように、学習意欲を高めていきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 福井 靖子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・幼児造形 I) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53150abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 76名 **回答者数** : 63名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	60	2	-	1	-	-	-	63	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.21						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.73						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	4.13						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 4.8%	やや 多い 15.9%	適切 79.4%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	5	4.06						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉学をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	5	4.00						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.08						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 6.3%	やや 高かった 20.6%	適切 であった 69.8%	やや 低かった 3.2%	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	5	3.92						
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	5	4.11						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	5	4.24						

1 授業の概要、特徴等

幼児の成長にとって重要な役割を果たす幼児造形活動について、講義と実践によって理解を深める。造形表現では、技法や技術にとらわれずに自由な表現活動ができることを念頭に置かねばならない。幼児の生活経験や思いつきなどを大切にすることで、創造的な態度を醸成するためのより具体的な指導法を学ぶ。幼児造形の基本としての、描画・制作・土粘土を前半で学ぶ。応用として、保育実習や採用試験での実践力をつけるために、小麦粉粘土・モダンテクニック・ポップアップを後半で学ぶ。

2 アンケート評価結果に対する見解

学生にアンケートを行った時期が後期の途中で、全ての授業内容が終わっていないかった。前半の基礎的な内容を踏まえて、後半の応用的な内容(実習や採用試験での実践力になるもの)を学ぶように授業を組み立てているので、後半を受けていない学生のアンケート結果には少し疑問が残る。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

当たり前のことであるが、本授業では毎回技法の異なる新たな造形活動をするため、学生は全授業に出席して造形作品を完成させることが、授業の目標達成のためには必要不可欠である。成績評価基準は、活動時の態度・理解度・準備・後片付け・完成作品の評価・スケッチブック(クロッキー)の評価の総合で判断し、単位を認定する。(欠席した学生には、次回個別で可能な限り指導して造形活動を行ってもらった。)

4 授業改善の方法

全体として、造形活動の楽しさは体感できたと思われる。しかし、とても意欲的な学生から、私語が多くて1回話しただけでは講義の内容を理解できていない学生まで、授業態度や理解度の違いが大きい。活動している学生の間を回りながら個別に言葉掛けをしていたが、今後はもっときめ細かく指導していきたい。特に熱心な学生には、より高度な技法や深い理解を求めて個別に指導していきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 中西 信之 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : レクリエーション指導法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55610 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 34名 **回答者数** : 20名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	20	-	-	-	-	-	20	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.30						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.45						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.26						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	適切	とても 多い 5.0%	やや 多い -	適切 95.0%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	4	4.75						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.70						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	5	4.79						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった 10.0%	やや 高かった -	適切 であった 90.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.70						
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.65						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.70						

1 授業の概要、特徴等

選択科目という特性から学生自身不安と興味が入り組んでいる科目である。内容としてレクリエーションというキーワードから指導の立場として付加価値的な要素を絡めながら特に1/3は理論1/3は実技1/3は全体像のまとめとして実施いたしました。大学内では幼児教育の基礎知識ならびに必要な技能や知識を伝授されているかと思いますが、私の要素としては自身が現場で培ったノウハウをできる限り次世代の指導者に伝えるべく授業を構成いたしました。但し以前の内容と比べて講義形式を多く取り入れ、伝える教育から自ら考える教育に移行しました

2 アンケート評価結果に対する見解

中々学生間 講師と学生間の温度差は縮まってないようです。現場に出たとき学生自体伝えてきたことがよみがえってくるのですが、まだまだその点を指導しきれていないことに痛感いたしております

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

いつも同じながら目標達成に関しては彼らが将来現場で結果を表してくれるでしょう。成績評価に関しては受講を基本としております。各回のレポート最終の筆記試験等で適切に評価できたと思います

4 授業改善の方法

改善点として各回もレポート作成を実施し振り返ることができるようにおこないましたが、中々理解までは達していなかったかと思えます。指導者側の力不足を痛感しております。どうも学生側が期待しているイメージとは離れたところにあるのでしょうか。今回で私どもは終了いたしますが今後担当される先生に引き続きレクリエーションの楽しさを伝授していただければと思います

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 加藤 明日香 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 介護予防 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7225 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	6	1	-	-	-	-	7	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	2	4.29					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	2	3.14					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	4	4.14					
授業内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であったと思いますか	やや 少ない	とても 多い 14.3%	やや 多い -	適切 85.7%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.86					
授業の 進め方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	3	4.71					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.57					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 57.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
総合 評価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.71					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.57					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	4	4.71					

1 授業の概要、特徴等

リハビリテーションについて、介護予防の視点に立った授業内容。リハビリテーションの概論から小児分野、身体障害分野、精神障害分野、老年期分野に分けた障害理解、リハビリテーションの知識、他職種の理解などを中心とした授業内容とする。基本的に作成したプリントの空欄に用語を埋めていながら授業を行う。資料を多く使用し、出来るだけ映像を見せながら分かりやすく、将来に活かせる知識となるように工夫を行う。

2 アンケート評価結果に対する見解

将来生徒が現場に立った時に使える知識となればと思い授業をしているが、だいたい達成できていると考えられる。しかし、ほとんどの生徒が「予習」不足なので、「予習」してもらえよう指導が必要だと感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

各分野の主な障害を理解すること。ケアの際の留意点やリハビリテーションや介護予防についての知識を深めることなどを授業の目標達成とする。成績評価基準は筆記テストの内容と授業態度、出席日数を主とする。

4 授業改善の方法

生徒が集中できるような環境設定。予習ができるような授業内容の工夫。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 武田 千幸 **職名** : 講師 **所属** : 専攻科
科目名称 : 高齢者に対する支援と介護保険制度 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7215 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	5	1	-	-	-	-	6	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	4.50						
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.83						
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	3	4.17						
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い	やや 多い	適切 100.0%	やや 少ない	とても 少ない	無回答	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	3	4.67						
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気は乱れないように注意を払っていましたか	4	4.50						
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	4	4.50						
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			16.7%	16.7%	66.7%	-	-	-	
	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	3	4.50						
総 合 評 価	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	4	4.67						
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	3	4.67						

1 授業の概要、特徴等

介護保険制度を中心として、その他高齢者が関連する法律や制度、サービスについて講義を行った。介護福祉士や社会福祉士、訪問介護員等高齢者の介護や福祉に携わっていく上では必須の内容であり、今後高齢者がますます増える日本において、誰もが知っておくべき内容でもある。授業ではテキストを中心にすすめ、不足している内容についてはプリントを配布し、教員の説明を聞くだけでなく、文字や図を見ながら、必要ところはメモを取ることで授業後も復習しやすいように配慮した。

2 アンケート評価結果に対する見解

全ての項目において、全体平均に近い評価になっている。課題について、教員としては量が少なかったように感じていたが、学生の14%近くが多く感じており、83%は適切と感じていた。制度を理解する授業であるため、暗記すべきことが多く、課題を繰り返すことで暗記できるように工夫したつもりだったが、学生は負担に感じていたのかもしれない。しかし、暗記すべきことに変わりはないため、課題に取り組む際のモチベーションをいかにあげるかを考えなければならない。テキストについては、なるべく新しいものを採用する必要がある、今後考えていきたいと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生の取り組む姿勢に差があり、毎回予習復習を行い、今までに他の科目で習った内容とつなげて考えることのできた学生は、目標が達成できたと思われる。出席はしているが、理解が不足していた学生や、遅刻や欠席が多かった学生については、目標が達成できていない部分もあると思われる。成績に関しては、出席、筆記試験、授業態度を総合的に評価し、単位認定を行った。

4 授業改善の方法

学生が介護や福祉に携わる上で必要な授業内容であることをもっと認識し、必要性を感じて意欲的に学ぶために、授業の導入部分をまずは工夫していきたいと考える。生活福祉コースの場合は2回生後期、専攻科においても後期の授業であり、資格取得直前のタイミングである。実習先で利用者とかかわった経験も十分にあり、実習先で出会った高齢者をイメージしながら授業を受けられるように講義を行ってきたい。

教員による授業アンケート (2012年度 後期)

教員名 : 山田 和歌子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 障害の理解 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7425 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	6	1	-	-	-	-	7	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講 態度	① 私語や居眠り、遅刻する学生がいましたか	3	3.86					
	② 受講に当たり、授業の予習・復習をしていましたか	3	3.71					
	③ 与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組んでいましたか	2	4.29					
授業 内容	④ 課題の量や内容は、この授業の目標を達成するのに適切であった と思いますか	やや 少ない	とても 多い - やや 多い 28.6%	適切 71.4%	やや 少ない -	とても 少ない -	無回答 -	
	⑤ 明瞭でわかりやすい話し方でしたか	2	4.57					
授業 の 進 め 方	⑥ 授業中、勉強をする雰囲気や乱れないように注意を払っていましたか	4	4.43					
	⑦ 熱意が伝わる授業であったと思いますか	3	4.71					
	⑧ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか	やや 高かった	非常に 高かった - やや 高かった 42.9%	適切 であった 57.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
総 合 評 価	⑨ 学生の理解度に配慮しながら授業を進めましたか	4	4.57					
	⑩ 学生に新しい知識を与え、問題意識や関心を高めることができましたか	3	4.57					
	⑪ この授業の内容やレベルは、学生にとって満足のできるものであったと思いますか	2	4.71					

1 授業の概要、特徴等

私自身が言葉にして伝えるというところが不得意であるため、なるべく学生に理解してもらえるように、プリント・図・教科書・新聞等を活用したり、黒板による文字・図・絵等により視覚からの工夫を行い講義を試みた。学生数が少人数のため一人一人に気を配りながら、必ず授業中に発言する機会をつくり、自分の意見を伝え、また他者の考えから自分の考えを深めていくようにしている。

2 アンケート評価結果に対する見解

受講態度については、居眠り遅刻があるから、授業中の発言が少なく、テストの点が悪いわけでもないのに、その点については、講義の内容を学生が興味を持つことができるよう工夫していく。また学生の日常生活への配慮も必要である。課題については2回であったが、学生はやや多いとなり私との意識の違いがある。授業レベルではやや高いが半数弱あるため、どの部分が難しかったか考察し、再構成していく必要がある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生のアンケートより授業レベルがやや高かったが半数弱あるがテストについては、全員60点以上取ることができたので授業内容については理解できていると考えるため授業の目標は達成できたと思う。しかし介護福祉士としての理解ができたかどうかを考慮し、介護福祉士の過去問題を含めテストに取り入れたが、できている学生もいれば半分程度しか理解できていない学生もいるので、授業の内容を考えていく必要がある。

4 授業改善の方法

障害の理解での今回の授業内容として、教材や学生との意見交換、発表等で終わってしまったので、次回はDVDからの映像での理解、ゲストティーチャーより現実での障害を理解してもらおうと思いついて検討している。それにより興味や関心をもってもらいながら、分かりやすい授業にしていきたい。私自身の話し方にも工夫が必要であり、学生が理解しやすい内容で、ゆっくり、滑舌よく話す努力をする。

